

高野歯科クリニック

一般歯科、小児歯科、口腔外科、インプラントなど

- 代表者名 院長 高野 宏文
- 設立年月日 2002年(平成14年)10月
- 所在地 〒409-3423
山梨県南巨摩郡身延町飯富1874-1
- TEL 0556-20-4700
- FAX 0556-20-4700
- E-Mail k.tdc0210@siren.ocn.ne.jp
- URL
- 業 種 医療業
- 資本金額
- 従業員数 5人

インタビュー



院長
高野 宏文

テーマ

たった1日で白い人工歯を使った治療が完了する革新的歯科サービスの開発

短期間でのむし歯治療のニーズへの対応と、高精度で審美性の高いセラミックの人工歯を従来よりも低価格で提供することを目指し、新たにデジタル歯科技工装置を導入。診察～人工歯装着まで最短で1時間～1時間半ででき、1日で治療を終えることも可能になった。また歯科技工所への外注コストのカットなどにより、従来よりも低価格での提供を実現した。



今回導入したデジタル歯科技工装置

歯科の治療はむし歯治療であれば診察～人工歯装着まで2～3回の通院が必要で、1回の治療時間も1時間前後となり、治療が完了するまで最短でも1～3週間の期間を要する。特に歯科技工所へ外注して製作している人工歯の最終調整には時間を要し、人工歯が入るまで1週間以上経過することで、治療中の患部の様相が変化してしまうこともある。

患者側からは通院回数を減らすことや、1回に必要な治療時間を短くすることが強く求められている。特に高野歯科クリニックのある山間部の地域では高齢者や要介護者の患者も多く、通院回数や治療時間の短縮は重要である。

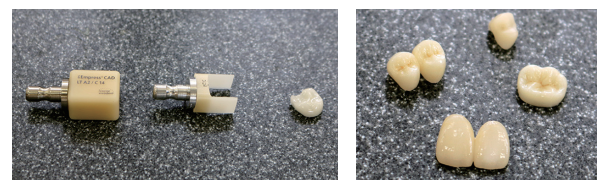
また一方で人工歯を入れる際、白く審美性の高いセラミックの人工歯が好まれるが、保険診療の対象外ということもあり高価で手が出せないため、硬質レジン前装冠や金属冠を選ぶという人も多い。中には金属アレルギーなどにより健康面への影響が心配されることもある。

そこで同クリニックでは、人工歯の製作期間を短縮し、かつ精度を上げ、また生体親和性の高いセラミック材料の人工歯を適正な価格で提供できるようにすることを目指し、デジタル歯科技工技

術を利用した人工歯の新しい製作プロセスに取り組んだ。

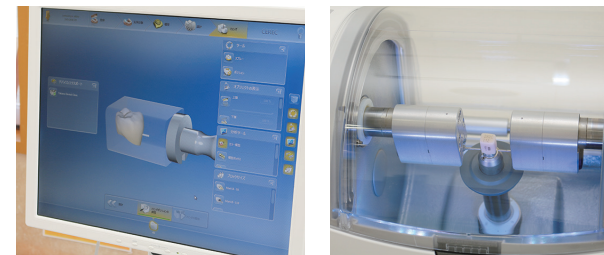
新たに口腔内スキャナ、歯科用CAD/CAMを導入し、デジタル技術による人工歯の製作を実施。これまで印象材で歯の型を取り、型に石膏を流し込んで模型を製作していた工程は、口腔内全体を短時間でデジタルスキャンし、3Dデータで計測できるようになった。次に石膏模型を元にワックスで人工歯を作る工程では、スキャンデータを診察歯科用CADに送り、その場で削り出しが可能になり、大幅な時間短縮を図ることができた。さらに患者の処置部に合わせて噛み合わせや色味調整などを行う工程では、スキャンデータにより歪みのない高精度な人工歯の製作が可能となり、噛み合わせ調整なども最小限で済むようになった。

すべての工程が院内で対応でき、各工程で大幅な時間短縮が可能になったので、診察～人工歯装着まで最短で1時間～1時間半でできるようになった。1日で治療を終えることも可能で、患者の時間的負担、身体的負担も激減した。また歯科技工所への外注コストがカットでき、セラミック材料は価格が安定していることなどから、従来よりも低価格でセラミック人工歯を提供することも可能になった。



▲セラミック素材と削り出した人工歯

幅広いニーズに応えられる診療を実施



▲スキャンしたデータに基づいてモニター上でデザインし、そのデータを元に自動で削り出される

高野歯科クリニックは2002年に身延町に開業し、2人の歯科医師と3人の歯科衛生士で診療を行っている。地域密着型の診療スタイルで、保険診療を中心に小児から高齢者まで幅広い年齢層に対応。一般歯科、小児歯科、口腔外科のほかに、高野宏文院長が麻酔学教室に在籍していた経験を生かして、病気を患った患者に対しての歯科治療も行っている。また自由診療での審美歯科やインプラントも可能で、幅広い歯科診療を手掛けている。

「街中の歯医者ではないので、インプラントや審美歯科の要望数はそれほど多くはありませんが、さまざまなニーズに応えられる体制を整えています」と高野院長。身延町で開業する前は、神奈川県内で歯科医として活躍するとともに、大学で麻酔科の非常勤講師も務めていて、豊富な知識や経

験が幅広い診療を可能にしている。

地域医療にも積極的に取り組み、地域の小中学校の歯科医や、町の健康づくり推進委員として予防歯科の観点で健診や指導を行ったり、また特別養護老人ホームの委嘱歯科医として、介護が必要な患者さんの歯科治療などにも携わっている。

今回の取り組みは、日頃の診療を通して感じていたことがきっかけとなった。クリニックがある身延町は山間部の地域ということもあり、高齢者や要介護者の患者さんも多く、かねてから患者さんの負担を減らしたいと考えていたという高野院長。「治療に来るには車での移動が必要で、要介護者の患者さんはご家族の方などに付き添ってもらわなくては通院できません。これからますます高齢化が進む中で、いかに患者さんの負担を減らすかは大切な問題です」とその重要性を説く。

また最近では人工歯として銀歯ではなく、自然な白い歯を好む人が増えているが、「セラミックの人工歯は高価格で、本当は入りたいけどあきらめるという方も多いのが現状です。製作コストの削減などによって、少しでも価格を下げることで、もっと患者さんのニーズに応えていきたいと考えていました」と今回の開発に取り組んだもう一つの理由を明かす。

より地域に根差した歯科サービスを目指して



高野歯科クリニックのスタッフのみなさん

新たなデジタル歯科技工装置による人工歯の製作は、試作や研究を重ね、2017年2月から患者さんの要望に応じて対応している。

「スキャンして描き出された歯をモニター上で修正する時の検討を深め、より患者さん本来の歯に近づけられるようにしています。スキャンも歯の削り出しもコンピューターなので精度が高く、価格も従来よりも下げることができ、患者さんに喜んでいただいています。1本入れた方はまた次も選ぶ方が多く、リピーターも増えています」と、高野院長はより広いニーズに対応できるようになったと満足そうにほほ笑む。

今後はさらに患者さんのニーズに的確に応じて

いくため、また違った角度からの歯科サービスも検討しているそうで、「将来的には往診もやっていかなければと考えています。病院に来なくても来られないお年寄りや要介護者が、入れ歯の不具合などで困っているケースは多いはず。現状でも往診を希望する声はあるので、地域性を考えても、ますますそういったニーズは高まっていくと考えられます。そういった地域に根差した診療をさらに進めていきたいと思っています」と思いを語った。

常に患者さんの立場に立ち、患者さんが求める歯科サービスの提供に取り組んでいる高野院長。確かな知識と技術、そしてより良い歯科サービスを追求するその姿勢は、これからますます地域の歯科医療を支える大きな力となるだろう。



高野歯科クリニックの外観